

研修報告書 No.20

県外病院初期臨床研修医

研修先： 特定医療法人長生会 大井田病院
医療法人聖真会 渭南病院

冬の寒い時期に、高知県の幡多地域で研修をさせていただいた。大井田病院で2週間(その間に沖ノ島へき地診療所での見学も行った)、渭南病院で2週間の研修を行った。私自身が島生まれ、田舎育ちであったため、田舎ならではの地域の特性はぼんやりと理解した上での状態であった。そのため、地域における医療体制という面のみに集中して研修に取り組むことができ、非常に有意義な研修であった。私自身が現在在籍する研修病院では取り組んでいない地域密着型の診療体制を学び、実際に行われている診療内容そのものにも患者層やそれぞれの病院の特性に合わせた取り組みがなされているように感じた。

そうはいっても、私自身の研修病院も全国的に見ると人口が少なく、高齢化の進んだ地域にあり、訪問看護、訪問リハビリなどと分担しながらの訪問診療や、紙カルテでの診療がなされている診療所での外来も行っている。今回は、特に私自身が感じた新しく学び、興味深かった研修内容に絞って感想を述べたいと思う。

大井田病院では、幡多福祉保健所に訪問して公衆衛生を志す先生と対話する機会をいただいた。疾病に対する医療行為の質ももちろん重要ではあるが、特に地域医療においては医療資源の配分などシステム作成が非常に重要であり、病院、施設、自宅などそれぞれのステージ間でシステムを作り、できるだけ円滑に協力をしていくことが必要であると学んだ。日々、診療技術の向上を目指している私のステージとは異なる医療の難しさを感じた。ただ、私は臨床のみならず公衆衛生という分野に以前から強く興味があったため保健所での研修は病院内では得難く、自分の理解を深める意味でも有意義であった。今後も、大井田病院での研修の一環として保健所での研修はぜひ続けていただきたい。

渭南病院では外来診療を行うことが多かった。研修病院以外での外来を行った経験はほとんどなかったため、その点で学ぶことができた内容は多彩であった。私は常々、医療は疾病に合わせてガイドラインに基づいた画一的な治療を行うべきではなく、患者背景、本人の希望、家族の希望、病院の医療資源(使えるベッド数、採用している薬剤、可能な手術内容など)に合わせて最適の医療を提供すべきと考え、研修病院では日々診療を行っていた。渭南病院では特に医療資源が乏しく、手術を要する緊急疾患は救急車で1時間離れた病院への転院が必要な立地であるため、患者にとっても家族にとっても最適なマネージメントを常に考えながら診療するトレーニングになったとともに、自分自身のマネージメント能力の未熟さを感じた。

両病院とも研修の際にお世話になった先生方は、システム作り、人材育成に熱心であり、強いリーダーシップを発揮し地域医療の改革を進めておられた。その信頼の厚さゆえに少数の人間によって成り立っている地域医療の危うさを感じる研修にもなった。

最後に、私を温かく指導していただいた大井田病院、渭南病院、沖の島へき地診療所の先生方やスタッフの方々、様々な面で地域医療研修を支えてくださった高知医療再生機構の方々に感謝申し上げます。